

# 風の記憶

校訓 健やかに智慧深くあれ

## 今こそ思いやり

寒さはまだまだ厳しいのですが、大寒を過ぎ、春に向けて木々の芽が少しずつ育ち、芽吹き準備が始まっているようです。さて、新型コロナウイルス感染症が急激に拡大し、全国各地にも過去最多の感染者数を記録する日が続いています。山梨県でも昨日371人の新規感染者が確認され、甲斐市内の小中学校においても感染者や濃厚接触者の報告が相次ぎ、これまで以上の対応が必要な状況となっております。1月23日(日)長崎知事は臨時特別協力要請を发出、小中高校等に対して、全国的に学校での活動を通じた感染拡大が問題となっているとして、2月13日(日)まで分割授業やオンライン授業、分散登校を実施し、感染防止に努めるようにと要請がありました。また部活動についても、自粛を求めるなどの要請が昨日ありました。甲斐市教育委員会では、感染症対策と子どもたちの安心安全な学校生活の両立のため市内の小中学校すべてを「分散登校」を行うとともに、感染者が確認された際は、すみやかに「臨時休業・学級閉鎖・学年閉鎖の対応」を行うこととし、保護者向けに過日通知を发出させていただきます。保護者の皆様におかれましては、昨日のように、メール等で急な連絡によるご対応をお願いすることが予想されますが、今後ともご理解ご協力をお願いいたします。

2学期初めに実施しましたが、各学級の半数が登校し授業を行い、残りの生徒は家庭学習を行う、また翌日には生徒が交替して残りの半数が授業を行うという分散登校を1月27日(木)から2月9日(水)まで実施します。家庭学習には、学校にある端末(クロームブック)を持ち帰り、活用していく予定です。家庭学習の内容を登校した際の授業で補い、授業を進めていきたいと思っております。家庭とつないで行うオンライン授業は、今回初めての試みになりますので、なかなかうまくいかない部分もあるとは思いますが、試行錯誤を繰り返しながら、前進していけたらと思っています。ご理解とご協力をお願いいたします。また、PTA運営委員会、学校評議員会は紙上での提案に、2月4日(金)に予定していましたが、新入生保護者説明会は、保護者のみの参加に変更させていただきます。今後、学校行事等変更等ある場合は、メールまたはHPや文書にて連絡させていただきます。すべては、全校生徒やその家族、本校の教育活動を守るための措置として、ご理解とご協力をお願い致します。保護者の皆様方におかれましては、これまで以上に、家庭内の感染防止に努めていただけるよう、重ねてお願いいたします。

### <玉幡中生と保護者の皆様へ>

これからも学校生活や健康面でご心配がございましたら、各担任等へご連絡ください。各ご家庭におかれましては、お子様やご家族の方の体調不良等がございましたら、速やかに学校へご連絡いただきますよう、よろしくお願い致します。

今後最優先すべきことは、子どもたち、保護者の皆様の心身の健康安全であると考えます。皆様の心の安全・人権を守っていくために、ご協力をお願いいたします。冷静な対応を心がけていただくとともに、思いやりのある行動にご配慮くださいますようお願いいたします。

新型コロナウイルスに感染するリスクは誰にでもあり、感染した本人や周りが、つらい思いをすることは、何があっても許されないことです。インターネット、SNS、噂などでは、事実と反する不確かな情報が流されることがあります。これらの情報を信じたり、拡散したり

1111□1□1□1□1□1□1□1 1 1 1 1 1 1 1 1 1□1□□□□ 塾 構 内  
脈 血 42 U 纒 O 颯 H 松 ~ 俵 ち

コロナをおそれ、  
過剰な反応になっていませんか？  
あなたの言葉や行動が人を傷つけてしまうことがあります。  
この子どもをきっかけに「自分のこと」として考えてみましょう。

不安を差別に  
つなげちゃいけない。

気づこう、  
変えよう、  
そのひとこと。  
STOP! コロナ差別

尾崎 茂

法務省・全国人権擁護委員連合会

をとっていただきますよう、心よりお願い申し上げます。子どもたちへの声かけもよろしくお願いたします。「やさしさと思いやり」の心で、今後も豊かな玉幡中生の育成に努めてまいりますので、ご理解とご協力をよろしくお願いたします。

## 震災を知らない子どもたちへ

今年も1月17日になりました。1995年（平成7年）1月17日5時46分に、兵庫県の淡路島北部（神戸市垂水区）沖の明石海峡を震源地としてマグニチュード7.3の兵庫県南部地震が発生した。近畿圏の広域が大きな被害を受けた。特に震源に近い神戸市の市街地の被害は甚大で近代都市での災害として日本国内のみならず、世界中に衝撃を与えました。このような状況だからこそ、みなさんに読んでほしいと思いました。



1月17日を迎えました。私たちにとっては忘れ得ない日です。と同時に27年も過ぎたんですね。震災の時、何歳だったかを尋ねたら「生まれてなかった」と答える生徒さんばかりになって、なるほど久しいわけです。

「戦争を知らない子どもだった自分の周りは、震災を知らない子どもたちばかりだな」と苦笑しつつ、震災直後のことを思い出しました。焼け野原の板宿を歩きながら、教科書で見た東京大空襲の写真の中にあるような錯覚と、自販機の樹脂が熱で溶けて放つ臭気はなかつただろう、と妙に冷静な自分とがありました。経験していない戦争の惨劇にも、関心を持ち思いをはせることで少しは理解が近づけるのかもしれない、と考えました。

そう思えばこそ、震災を知らない中学生諸君に語りかけたいのです。苛烈（かれつ）な表現もありますが、ご容赦ください。

…たくさんの方が亡くなった。6434人だと聞く。その一人ひとりに等しく人生があったわけだ。中学生のキミ、もし自分がその中のひとりだったら？ 建物に押しつぶされたり、火が回ったりして亡くなる苦痛と恐怖。親など肉親を亡くす悲しみ。想像を絶する。

10年前の東日本大震災も大変な災害だった。死者1万5899人、行方不明者2526人。阪神・淡路を大幅に超える被害者の9割は津波によるそう。

コロナ禍は現在進行形の大惨事だ。1月17日の時点で1万8449人も命が失われたそうだけど、これは東日本大震災の死者行方不明者の合計とほぼ同じだし、今も増え続けている。全世界ではコロナで550万人も亡くなっているそうだけど、第2次世界大戦ではこの十数倍もの犠牲者があったという。気が遠くなるね。

大きな数字のインパクトだけにとらわれてはいけない。全体観とともに、一人ひとりになにがあったのか、個々の人生からも理解を深めていくことが大切だと思う。

人は、自分が特別な存在だと感じたいゆえに、時に自己中心的な言動を見せるものだ。キミにもそんなところはないかな？ だけど少し考えてほしい。他人を大切にしない人が、どうして周りから大切にしてもらえる？ 他者の痛みを知ることは、自分を大切にすることと同じだと言えないかな？

災害、疫病、戦争。抱えきれないほどに辛いものだけど、それらを直視して考えを深めることは、周囲の人を、そして自分自身を大切にするための糧であると、私は思うよ。（井沢伸平 著）